令和６年度　船橋市飛ノ台史跡公園博物館　企画展

# 縄文と弥生

## ―船橋の縄文晩期と弥生時代―

Tobinodai Historic Site Park Museum
船橋市 飛ノ台史跡公園博物館

# 開催にあたって

今年度の展示では、縄文時代の終わりと弥生時代の船橋の様子を見ていきます。独特な造形をもつ土器に代表される縄文時代の豊かな文化が、弥生時代にどのように受け継がれ変化していったのかを探り、近年の発掘調査成果も加えて、時代の変化の実像に迫っていきます。

本企画展が縄文時代や船橋の遺跡への理解が深まるきっかけになれば幸いです。

**令和６年 11 月**

Tobinodai Historic Site Park Museum
**船橋市 飛ノ台史跡公園博物館**

# もくじ


1　船橋の縄文時代晩期　・・・・・・・・・・・・・　1－4

2　縄文と弥生を比べる　・・・・・・・・・・・・・・　5－6

3　遺跡の分布で見る縄文と弥生　・・・・・・・・・・　7

4　船橋の弥生時代　・・・・・・・・・・・・・・・・　8－12


# 例　言

1　本書は、令和６（2024）年11月９日（土）～令和7(2025)年２月２日（日）に開催する、令和６年度企画展「縄文と弥生ー船橋の縄文晩期と弥生時代ー」の展示図録です。

2　本書の内容と展示構成は、異なっている部分があります。また、本書の写真は展示の全てを含むものではありません。


3　企画展は館員の協力を得て、狩野美那子（当館学芸員）が、本書の編集・執筆・写真撮影を行いました。文化課・埋蔵文化財事務所・郷土資料館・西図書館郷土資料室の協力を受け、写真の一部は埋蔵文化財調査事務所から提供いただきました。展示にあたり、下記の方々より協力を得ました。（敬称略・機関50音順）

我孫子市教育委員会　文化・スポーツ課　手嶋修吾

市立市川考古博物館　領塚正浩

野田市教育委員会　生涯学習課　大熊佐智子・川名葵

## 縄文時代晩期から弥生時代へ

縄文時代晩期～弥生時代中期前半は、船橋では住居の跡どころか、土器などの遺物もほとんど見られない時期です。その原因は、気候変動などにあると考えられますが、今後に残された謎でもあります。

縄文時代は主に石の道具を使用し、狩猟・採集・漁撈（ぎょろう）を行っていた時代。弥生時代は農耕による食糧生産を始め、後期になると金属の道具を使用するようになる時代。このように表現すると大きな変化が起こったように見えますが、その実態の解明はまだ途上にあります。船橋にゆっくりと押し寄せた時代の変化を見ていきましょう。

### 縄文時代晩期～弥生時代の土器編年概要

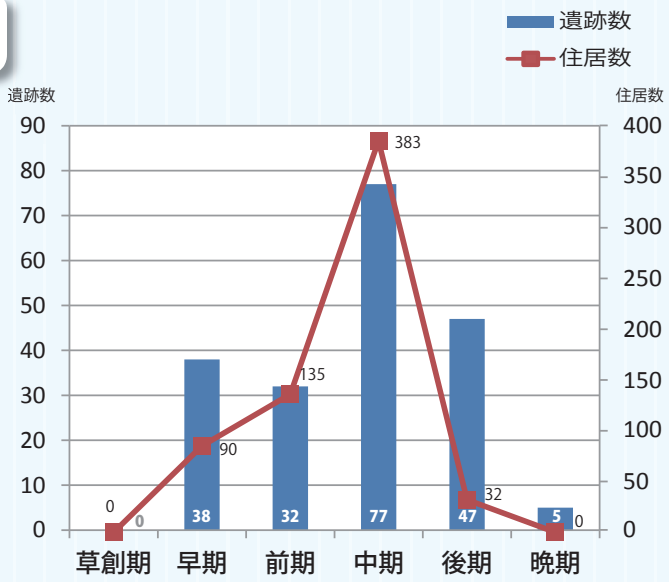
| | | 千葉の編年 | | 他地域の編年 |
|---|---|---|---|---|
| 3,200年前 | 縄文時代 後期 | | | |
| | | 安行３ａ式 | | 大洞B式（東北地方） |
| 3,000年前 | 縄文時代 晩期 | 安行３ｂ式 | 姥山Ⅱ式 | |
| | | 安行３ｃ式 | 前浦式 | |
| | | 安行３ｄ式 | | |
| 2,500年前 | | 荒海式 | | |
| | 弥生時代 前期末 | 荒海式 | | |
| | 弥生時代 中期 | （＋） | | 岩櫃山式（群馬） |
| | | （＋） | | 平沢式（神奈川） |
| | | （＋） | | 池上式（埼玉） |
| | | 宮ノ台式 | 阿玉台北式 | |
| 2,000年前 | 弥生時代 後期 | 久ヶ原式 | 大崎台式 | |
| | | 東京湾岸系 | 利根川下流～印旛沼系 | |
| 1,800年前 | | 山田橋式 | 臼井南式 | |
| | 古墳時代 | | | |

小林謙一 2019『縄文時代の実年代講座』、安藤広道 2023『ビジュアル版　弥生時代ガイドブック』、設楽博己 2023「土器の役割の変化 - 縄文時代から弥生移行期の土器編成 -」を参考に作成
（＋）は編年の未確定を表す

船橋市の主な縄文時代晩期と弥生時代の遺跡

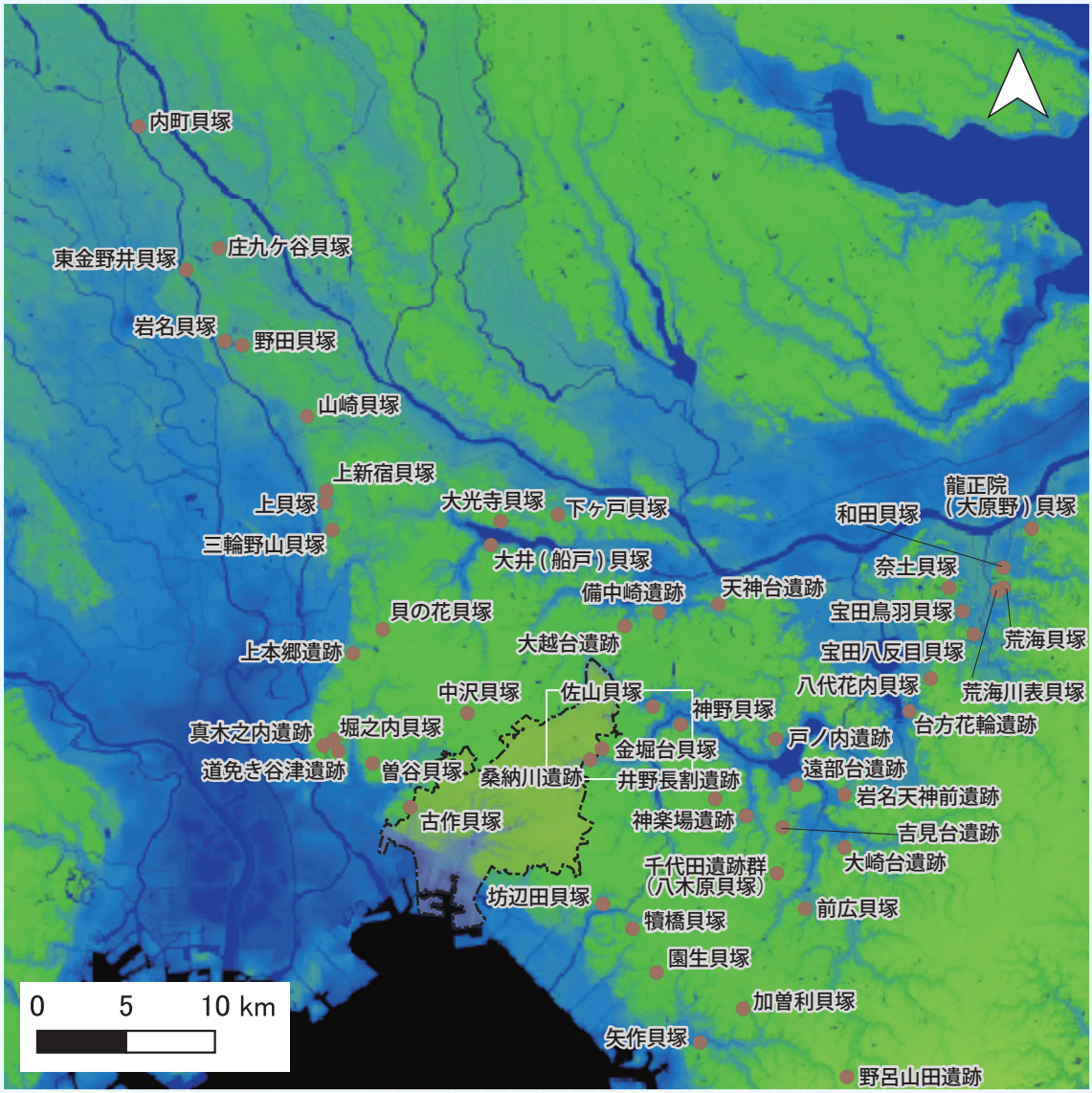
# 1 船橋の縄文時代晩期

船橋市内の206ヶ所の遺跡の内、縄文時代の遺跡は114ヶ所ありますが、縄文時代晩期の遺物が見つかる遺跡は5ヶ所しかなく、竪穴住居跡など明確な遺構は見つかっていません。市外にも目を向けると、これまで遺跡・貝塚の多かった東京湾沿岸部で減少し、内陸に遺跡が分布する傾向が見てとれます。特に金堀台貝塚や桑納川遺跡の立地する印旛沼（いんばぬま）水系や手賀沼（てがぬま）周辺で遺跡が多く、特に印旛沼水系では大型の集落が継続しています。




**船橋市内の縄文時代の遺跡数と竪穴住居数**

※令和４年度報告分まで




『千葉県の歴史』資料編　考古4「2縄文時代　(1) 貝塚」を参照　地図出典：国土地理院デジタル標高地形図【技術資料D1-No.954】を使用

**縄文時代晩期の千葉県北西部の遺跡分布**

## さらに詳しく知りたい方

『飛ノ台史跡公園博物館紀要』13　船橋市金堀台貝塚の研究　2016

須賀博子　2010「船橋市金堀台貝塚採集の縄文土器ー晩期を中心にー」『飛ノ台史跡公園博物館紀要』7

# 金堀台貝塚（かねほりだいかいづか）

晩期

金堀台貝塚は、縄文時代後期前葉から晩期中葉まで継続する集落遺跡です。発掘調査で見つかった遺構は、後期（加曽利（かそり）B式期・安行（あんぎょう）2式期）ですが、表土に近い層から晩期の遺物が見つかっています。晩期の遺物は一部を除き、小さな破片が中心です。発掘調査以外の採集資料にも晩期の遺物があります。

▲ 深鉢形土器（姥山Ⅱ式）

## 土版（どばん）

表

—

裏

土版は、方形や楕円形をした板状の土製品です。両面に沈線（ちんせん）や刺突（しとつ）の文様があります。何に使ったのかはわかりませんが、土偶と共通した文様をもつことから、祭祀などに使われたのではないかと考えられています。

武井氏採集資料

▲ 安行２～3a 式

▲ 安行 3a 式

▲ 姥山（うばやま）Ⅱ式

▲ 安行 3ｃ式

▲ 安行 3ｃ式以降

▲ 前浦（まえうら）式

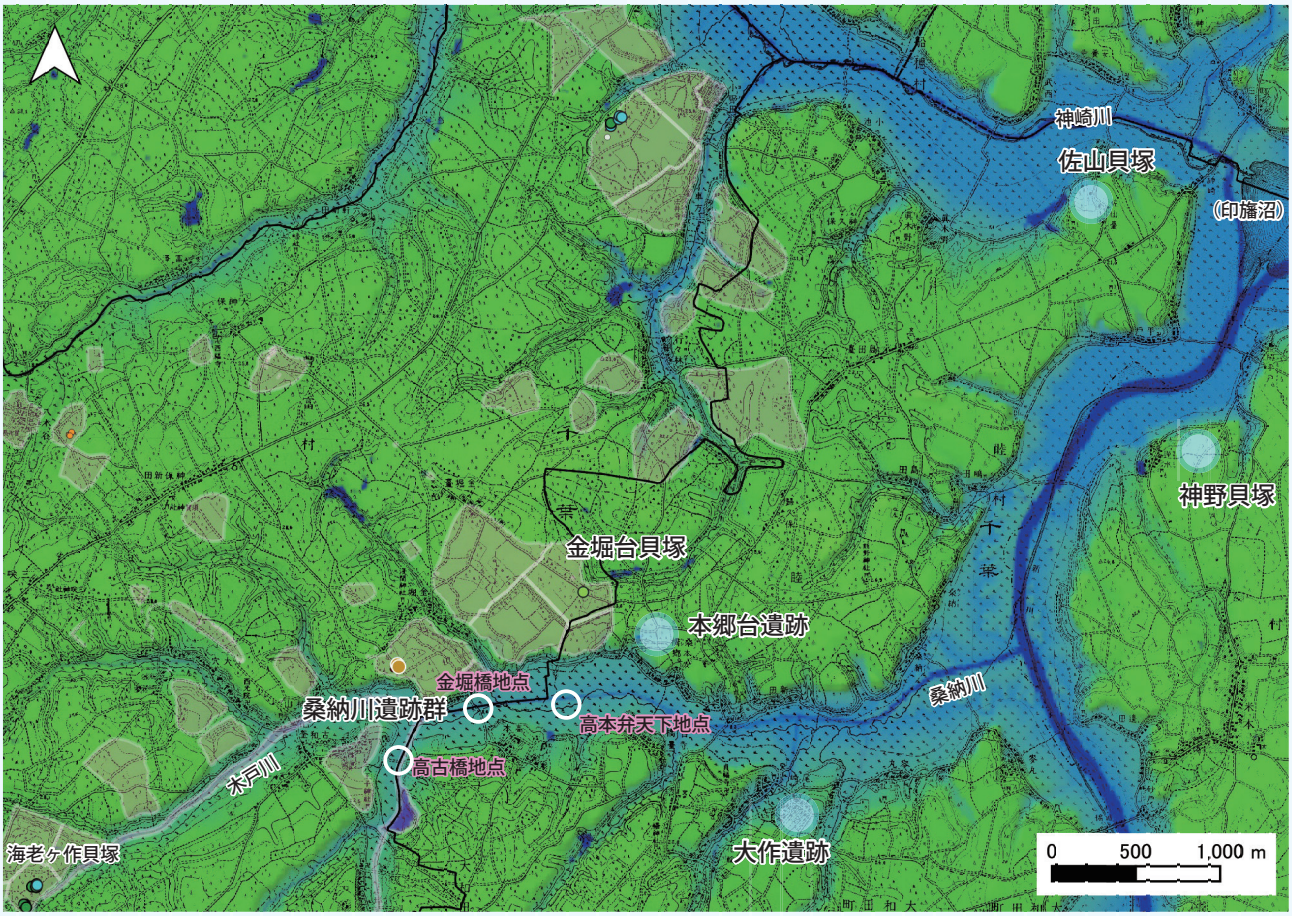
高橋氏採集資料

**金堀台貝塚出土土器**

# 桑納川遺跡群（かんのうがわいせきぐん）

晩期

桑納川遺跡群は、印旛沼へと流れる桑納川周辺の低地が遺跡になっている、市内では唯一の縄文時代の低地遺跡です。市民の方が採集した土器などを郷土資料館に持ち込んだことにより遺跡として認識されるようになりました。採集された資料のほか、河川の改修に伴い発掘調査が実施され、縄文時代（早期～晩期）、古代、近世の遺物などが出土しています。桑納川遺跡群では現在のところ、遺構は確認されていません。遺跡の性格については、台地上から遺物が流れ込んだとする説もありますが、石棒や土製耳飾りも見つかっていることから、低地の集落だったとする考えもあります。




地図出典：国土地理院デジタル標高地形図【技術資料D1-No.954】、明治37年2万分の1「白井」「神崎」を使用

**桑納川周辺の縄文時代後晩期の遺跡**

桑納川で遺物が採集される地点は、数ヶ所あり、縄文時代後晩期の遺物が多く採集される地点は高本弁天下（たかもとべんてんした）地点と呼ばれる場所で、北側の台地上には金堀台貝塚があります。桑納川から新川（しんかわ）が神崎川（かんざきがわ）に合流する一帯の台地上には、八千代市域にも同時期の遺跡があり、後晩期の遺跡がまとまってみられる地域です。

▲ 高本弁天下地点から台地上の金堀台貝塚を望む

**さらに詳しく知りたい方**

船橋市郷土資料館『資料館だより』86・90「特集　桑納川川底から発見された土器について」

▲ 加曽利B式（浅鉢）

▲ 曽谷（そや）式

▲ 曽谷式～安行1式（浅鉢）

▲ 安行1式（台付鉢）

▲ 安行2式

▲ 安行3a式

▲ 安行3a式

▲ 大洞（おおぼら）B式（浅鉢）

▲ 石棒

**桑納川遺跡群で採集された土器・石器**

# 2 縄文と弥生を比べる

縄文時代、弥生時代といっても、長い期間の中で多く2つの時代のうち最も住居数の多い、縄文時代中期と

5,000～4,400年前頃

## 縄文時代（中期）

**狩猟・採集・漁撈に対応する様々な道具**

▲縄文時代中期の土器と石器
奥：海老ケ作北遺跡（5） SI-030（加曽利E2式期）土器・土製品・石器
台石より手前：西ヶ堀込遺跡（2）SI-001（加曽利E3～4式期）石器

### 土器

#### 器種（形の種類と用途）

**主に深鉢形土器、浅鉢形土器**

深鉢形土器は主に調理に使用されました。深鉢が最も多く、様々なサイズがあるのが特徴です。木の実のアク抜きなど前処理を行うためだと考えられます。

#### 土器表面に施される縄文

縄が太く、文様は粘土を盛り上げて力強く立体的に作る物もあります。

#### 土器の底面に残る痕跡

底面には痕跡のない物がほとんどですが、後期は編物の痕跡が残るものもあります。

### 道具

狩りに使用する石鏃、木の実を割るための石皿や磨石、土を掘るための打製石斧、木を切る磨製石斧、網に付ける軽石など、様々な形の石器を使っていました。

### 居住

平面形態は円形が多く、柱は太く5本程度です。

◀西ヶ堀込遺跡（2）
SI-001

の変化があり、道具や住まいなど生活のあり方は一様ではありません。
弥生時代後期を代表例として比べ、違いを見ていきましょう。

1,900～1,700年前頃

# 弥生時代（後期）

**船橋の弥生時代の住居からは見つかる遺物が少ない傾向があります。**

## 主に壺形土器と甕形土器

壺は主に物を保管するため、甕は主に調理をするために使用されました。深鉢の系譜を引く甕は縄文時代ほど多様なサイズはありません。

縄が細かく、段で転がす方向を変え、羽のように見えます。縄の端には結節が見えます。

底面に痕跡のないものも多いですが、織物や葉の葉脈の痕跡が付くものがあります。イネ圧痕がある場合も。

弥生時代になっても石器は使用され続けますが、後期になると金属の道具も使われるようになります。しかし、船橋の遺跡からは金属が出土することはほとんどありません。金属自体が研がれて小さくなること、素材として再加工されることが考えられます。砥石が多くなることも弥生時代の特徴です。

▲ 銅鏃出土状況　夏見大塚遺跡（2）

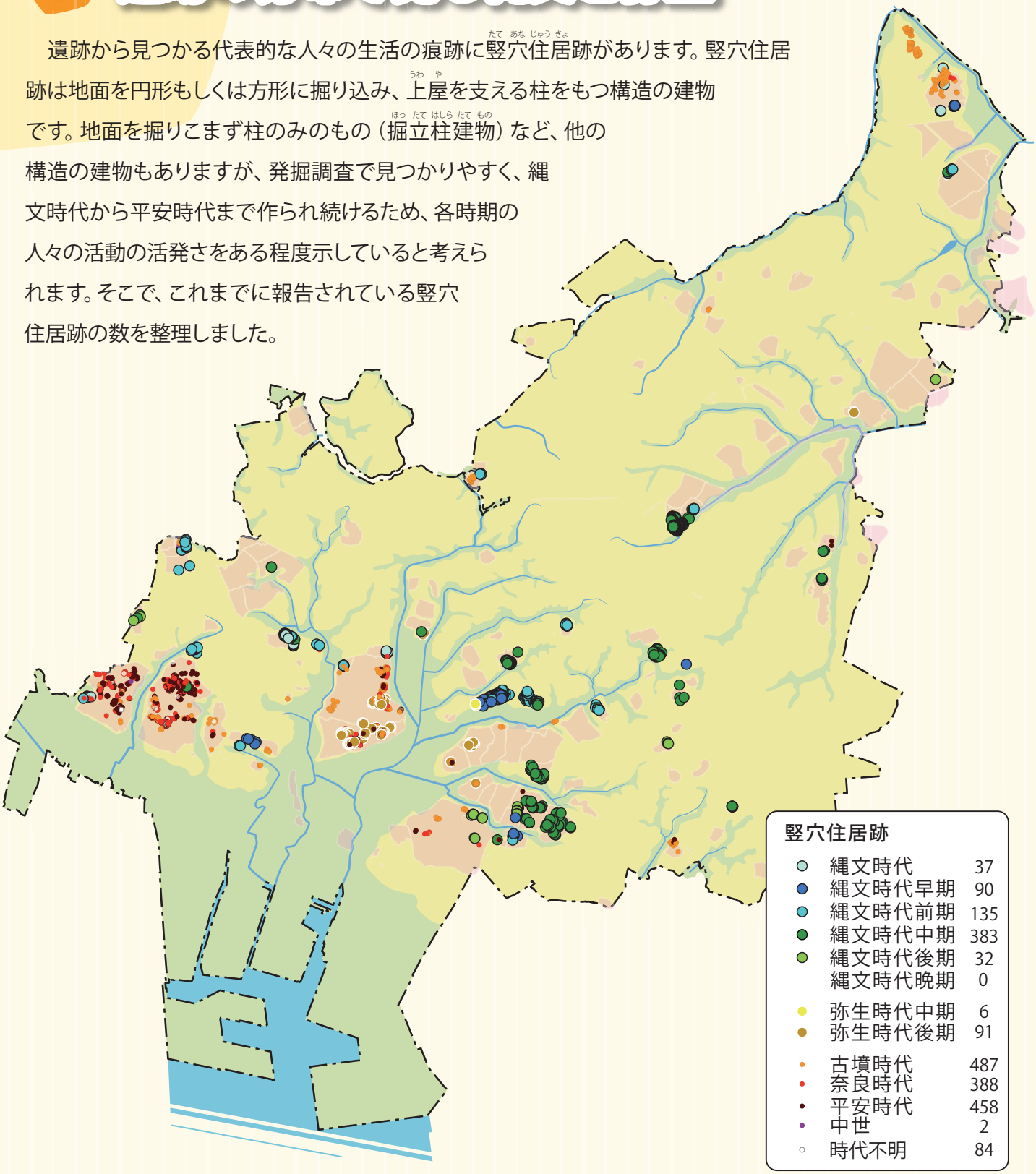
▲ 弥生時代後期の土器と石器
夏見台遺跡（68）　SI-008（弥生時代後期）

長方形に近い楕円形が多く、柱は細く４本に定型化します。

夏見台遺跡（68）▶
SI-008（焼失住居）

# 3 遺跡の分布で見る縄文と弥生

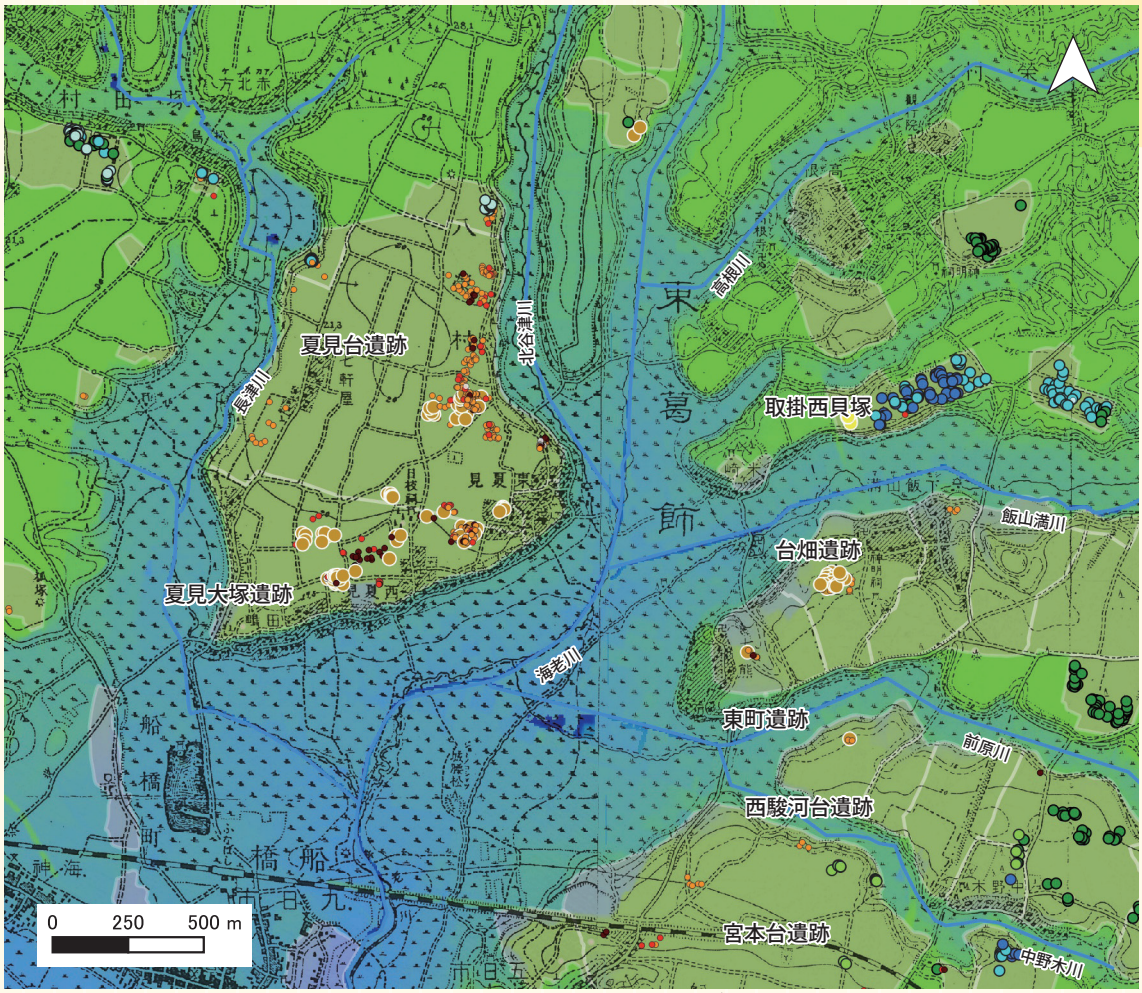
遺跡から見つかる代表的な人々の生活の痕跡に竪穴住居跡があります。竪穴住居跡は地面を円形もしくは方形に掘り込み、上屋を支える柱をもつ構造の建物です。地面を掘りこまず柱のみのもの（掘立柱建物）など、他の構造の建物もありますが、発掘調査で見つかりやすく、縄文時代から平安時代まで作られ続けるため、各時期の人々の活動の活発さをある程度示していると考えられます。そこで、これまでに報告されている竪穴住居跡の数を整理しました。




竪穴住居跡の分布を見ると、縄文時代は川沿いに内陸まで広がっています。それに対して弥生時代は海老川の低地周辺に分布が偏っている状況が読み取れます。

背景として稲作のために低地を利用したことが推測されますが、市内では現在のところ弥生時代の水田跡は見つかっていません。弥生時代の竪穴住居跡は97軒見つかっており、取掛西貝塚の6軒は中期、それ以外は後期のものです。

# 4 船橋の弥生時代




地図出典：国土地理院基盤地図情報数値標高モデル、明治37年2万分の1「船橋」「大久保」を使用

**海老川低地周辺の弥生時代の遺跡**

## 弥生時代中期

船橋市内の弥生時代は、中期前半から土器が見つかるようになりますが、これまで竪穴住居跡は見つかっていませんでした。しかし、取掛西貝塚の調査で、弥生時代中期後半の竪穴住居跡や土坑が見つかり、人々の生活の様子が少しずつわかってきました。

▲ 飯山満町採集
壺形土器片（平沢式〜遊ヶ崎式）

▲ 外原遺跡出土
壺形土器（宮ノ台式）

▲ 弥生時代中期の石器
取掛西貝塚　採集（個人蔵）

**さらに詳しく知りたい方**


石川日出志　2010「髙橋熙氏採集の弥生時代中期壺形土器片」『飛ノ台史跡公園博物館紀要』7
佐々木由香・山本華・栗原薫子　2018「船橋市における縄文〜古墳時代出土土器の種実および敷物圧痕の同定」『飛ノ台史跡公園博物館紀要』14

# 取掛西貝塚（とりかけにしかいづか）

中期

## 初めて見つかった弥生時代中期の住居跡とお墓

取掛西貝塚（7）では、市内で初めて弥生時代中期の住居跡が見つかりました。6軒の竪穴住居跡とともに見つかったのは、割れた土器がたくさん詰まった土坑（22T-006）です。復元できる壺ばかりが見つかり、骨などは見つかりませんでしたが、類例から墓ではないかと推定されています。

▲ 取掛西貝塚22T　弥生時代の遺構

▲ 取掛西貝塚22T-006土坑　上層土器出土状況

▲ 取掛西貝塚22T-006土坑出土土器（宮ノ台式）

▲ 夏見大塚遺跡（2）　方形周溝墓

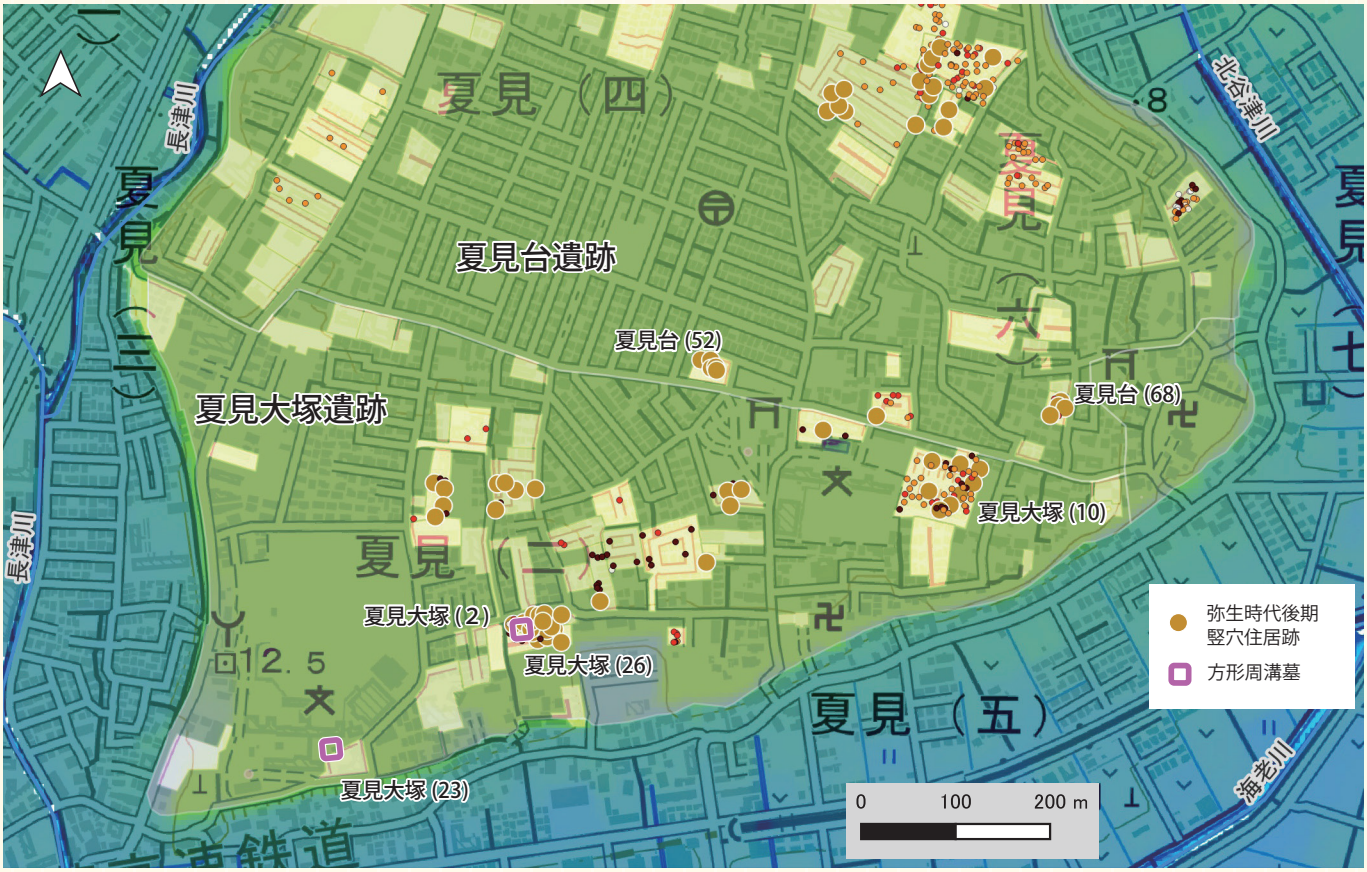
▲ 夏見大塚遺跡（23）　方形周溝墓

▲ 方形周溝墓から見つかった壺形土器（宮ノ台式）夏見大塚遺跡（23）

夏見の台地では弥生中期の竪穴住居跡は見つかっていませんが、2基の方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ）が見つかっています。方形周溝墓は方形の溝に囲まれた弥生時代のお墓です。夏見で見つかったものは4隅が土橋状に繋がっているタイプの方形周溝墓でした。

# 弥生時代後期

弥生時代後期になると夏見の台地上を中心に住居跡が増加します。周辺の遺跡と合わせて、見ていきましょう。




地図出典：国土地理院基盤地図情報数値標高モデル、地理院淡色地図

**夏見台地の弥生時代の遺跡**

## 夏見台遺跡・夏見大塚遺跡（なつみだいいせき・なつみおおつかいせき）

**後期**　市内を代表する弥生時代の遺跡

夏見台遺跡・夏見大塚遺跡は夏見の台地上にある遺跡で、弥生~平安時代の集落が広がっています。二つの遺跡を合わせて66軒の弥生時代後期の竪穴住居跡が報告されており、台地上の東側と南側にまとまる傾向があります。

**弥生時代の貝層の発見**

◀▲　夏見台遺跡（68）
SI-001の貝層

0　5mm
（400%）

▲ 夏見台遺跡（52）
SI-002出土 ガラス玉（後期）

市内では縄文時代はもちろん、古墳時代から中世に至るまで貝塚が築かれていましたが、これまで弥生時代のものはまだ見つかっていませんでした。見つかった貝塚は大きなハマグリが多い特徴がありました。

## ■弥生土器を楽しむ

弥生時代になると、土器の形からみると壺が増加します。夏見台遺跡を中心に、弥生土器を形から楽しみましょう。

### 甕形土器

鍋のように火にかけて調理を行う土器。飾りは少ない。

▲夏見台遺跡（68）
SI-008出土

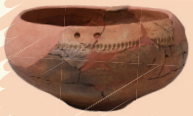
▲西駿河台遺跡（1）
SI-002出土

### 台付甕

▲夏見台遺跡（68）
SI-008出土

### 鉢形土器

盛り付け用の器



◀夏見台遺跡（52）
SI-001出土

◀夏見台遺跡（68）
SI-008出土

### 壺形土器

保管する機能を持つ土器。火にかけることが少ないので飾りが発達。保管に特別な意味が？

▲夏見大塚遺跡（26）
SI-009出土

▲夏見台遺跡（68）
SI-008出土

▲夏見台遺跡（52）
SI-002出土（胴部）

▲夏見台遺跡（68）
SI-008出土（口縁～頸部）

## ■2つの系統の土器

弥生時代後期の船橋周辺では、主に2つの系統の弥生土器が出土します。

### 東京湾岸系土器

口縁部に細かな押捺▶

頸部下端に
輪積み粘土の接合を残す▶

体部はハケメ調整▶

▲夏見台遺跡（52）
SI-001出土　甕形土器

口縁部に縄文▶

粘土を貼り付けた模様
（棒状浮文）▶

赤く彩色される▶

沈線で区画された山形文▶
区画の内には縄文
（縄文→沈線→磨消）

▲夏見台遺跡（68）
SI-008出土　壺形土器

### 利根川下流～印旛沼系土器

◀口縁は粘土を折り返し、
刻みと縄文

◀頸部は無文

◀頸部・体部間に沈線

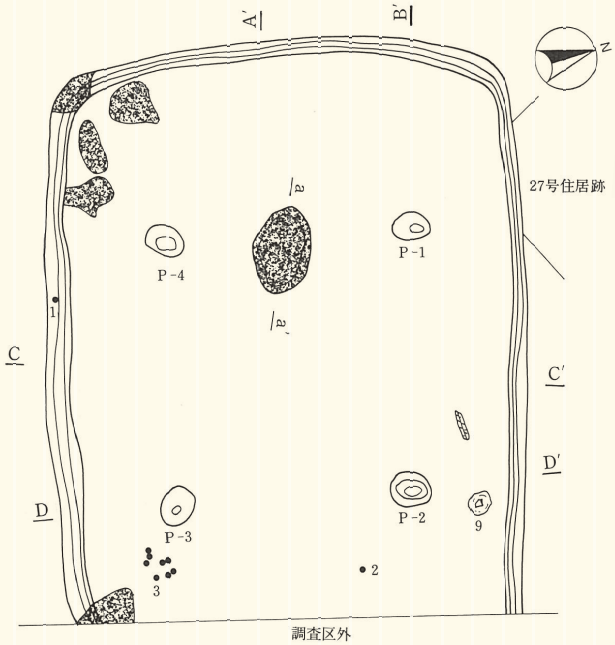
◀体部に縄文
（附加条縄文）

▲夏見台遺跡（52）
SI-002出土　甕形土器

関東の弥生時代後期土器は、縄文土器に比べて分布の範囲が狭く、各地に個性的な土器がたくさんあります。船橋の弥生時代後期の土器を見ていくと、主に2つの系統があります。東京湾岸系土器は甕と飾られた壺が特色で、対する利根川下流～印旛沼系土器は壺はなく甕のみという特徴があります。

## ■一つの住居跡で混ざって見つかる別系統の土器

船橋で出土する2つの系統の土器は、同じ住居から見つかる場合もあります。




▲夏見大塚遺跡（10）SI-029

▲夏見大塚遺跡（10）
SI-029出土　壺形土器（口縁部）

▲夏見大塚遺跡（10）
SI-029出土　壺形土器（頸部）

▲夏見大塚遺跡（10）
SI-029出土　広口壺

## 東町遺跡（あずまちょうい せき）・台畑遺跡（だい はた い せき）　後期

『台畑遺跡（8）』より

▲東町採集　壺形土器

壺底部にはイネの圧痕

### 台畑遺跡の弥生時代の竪穴住居跡の分布

台畑遺跡ではまとまって弥生時代後期の竪穴住居跡が見つかっています。隅丸方形（すみまるほうけい）の住居の向きが揃うのが特徴です。

▲東町遺跡（2）
SI-025出土　甕形土器

令和６年度船橋市飛ノ台史跡公園博物館企画展

**縄文と弥生**

発　行　日　令和6年11月9日
編集・発行　船橋市教育委員会飛ノ台史跡公園博物館
〒273-0021　千葉県船橋市海神 4−27−2
TEL　047−495−1325
製作・印刷　（有）エーワンネットワーク